

糸魚川市のごみ処理状況等について

1 第2次一般廃棄物処理基本計画 目標達成状況

■ごみの減量目標

(1) 家庭系ごみの減量目標

人口一人1日当たりの家庭系ごみ量(資源除く)を、令和7年度において551gとしています。令和2年度は679gであり、近年は若干の増加傾向となっています。

項目	実績(g)			目標値(g)	
	H30年度	R元年度	R2年度	R7年度	達成率 (R2比較)
人口一人1日当たりの家庭系ごみ量 (資源除く)	635	638	679	551	81.1%
対前年度比	-	100.5%	106.4%		

(2) 事業系ごみの減量目標

年間の事業系ごみを令和7年度において2,118tとしています。令和2年度は、令和元年度と比較して210tの減少となりました。

項目	実績(t)			目標値(t)	
	H30年度	R元年度	R2年度	R7年度	達成率 (R2比較)
年間の事業系ごみ量	2,688	2,703	2,493	2,118	85.0%
対前年度比	-	100.6%	92.2%		

(3) 発生抑制の目標

人口一人1日当たりのごみ総排出量を令和7年度において911gとしています。令和2年度は1,035gであり、近年は若干の増加傾向となっています。

項目	実績(g)			目標値(g)	
	H30年度	R元年度	R2年度	R7年度	達成率 (R2比較)
人口一人1日当たりのごみ総排出量	1,005	1,010	1,035	911	88.0%
対前年度比	-	100.5%	102.5%		

■生活排水目標

生活排水処理率を令和7年度において93.8%以上としています。令和2年度は94.2%であり、令和7年度の目標値である93.8%以上を達成しています。

項目	実績(%)			目標値(%)	
	H30年度	R元年度	R2年度	R7年度	達成率 (R2比較)
生活排水処理率	93.1%	93.8%	94.2%	93.8%以上	100.4%
対前年度比	-	100.8%	100.4%		

2 令和2年度のごみ減量に向けた主な取組（発生抑制・排出抑制計画）

(1) 環境学習・環境教育への支援

ア ごみ減量・分別説明会の開催

11会場で説明会を実施し244人の方から参加をしていただきました。

イ エコライフ出前講座（上越環境科学センター実施）

市内小学校、保育園、地区の集会等でごみの分別等の講座を実施していただきました。

(2) 施設見学会の実施

新ごみ処理施設の見学会を実施し、24団体506名の方から参加をしていただきました。

(3) 生ごみの減量（生ごみ処理機器の普及啓発）

項目	補助率等	補助個数		
		H30	R元	R2
コンポスト型	購入金額の3/4以内 上限額なし	10	11	31
堆肥化促進箱	購入金額の3/4以内 上限額なし	0	0	0
電動型	購入金額の3/4以内 上限額70,000円	4	11	13
合計		14	22	44

生ごみ処理機器の普及にいて、コンポスト型は令和元年度と比較し、20個の補助増でした。また、電動型についても、令和元年度と比較し、2個の補助増であり、令和2年度全体で、補助個数が22個の増となりました。

(4) マイバッグ持参運動の展開

海洋プラスチック問題や、地球温暖化解決の第一歩として、令和2年7月からレジ袋の有料化がスタートしました。

糸魚川市では、「石のまち糸魚川」デザインのマイバッグを作成しごみの分別説明会等で配布を行いました。



3 令和3年度の主な取組

(1) 環境学習・環境教育への支援

市で行うごみ分別説明会や上越環境科学センターが実施するエコライフ出前講座を通じ、ごみの減量化やごみの処理、リサイクルの意識向上に向けて周知啓発に努めます。

(2) 施設見学会の実施

ごみの分別や処理方法の理解を深めていただくよう清掃センターの見学会を実施します。

(3) 生ごみの減量（生ごみ処理機器の普及啓発）

生ごみ処理機器の購入助成を継続しながら、他の生ごみ減量方法も併せて周知啓発に努めます。

(4) 紙ごみ分別の徹底

燃やせるごみの中には資源化が可能な紙類が未だ多く含まれており、引き続き分別の徹底を呼び掛けるとともに、事例を示すなど取り組みやすいよう普及啓発に努めます。

(5) ドギーバッグの利用推進

ドギーバッグ（折詰め）を利用し、食べ残しを極力減らす取組を推進します。

(6) 20・10・0（に一まる・いちまる・ゼロ）運動の推進

宴会等に参加する方達へ飲食店等からも発信し、「20・10・0運動」を推進します。

(7) 資源物集団回収の周知

幼稚園・保育園、学校、PTA、自治会等の各団体や地域が実施している資源物集団回収の情報提供を行います。